

## 導流堤の水門管理について

蒲生干潟自然再生協議会事務局

第18回蒲生干潟自然再生協議会の中で課題（不特定者による導流堤水門の開閉）として出ていた導流堤の水門管理について、第三者が水門を開閉できないようにチェーンロックをしている。

水門管理については下記のメリットが考えられることから、今後の開閉割合及び管理者等の水門管理方法について、蒲生干潟自然再生協議会事務局及び協議会で検討を行い仙台土木事務所と相談の上実施していくことを提案する。

## 1 現状

- ・ 3基とも 85 c mの開度で固定。

## 2 水門を管理することのメリット

- ・ 蒲生干潟の水交換、塩分濃度等に影響があると考えられるため、蒲生干潟の生き物や環境の管理が可能になる。

## 3 課題

- ・ 開閉度合いによってどのような変化が起こるか把握できていない。
- ・ 管理した状況下での塩分濃度や生物相の変化のモニタリングが必要

## 4 今後の進め方

- ・ 自然再生協議会委員及び干潟の調査、保全を行う取組み団体と意見交換を行い、水門の開閉具合に係る研究やモニタリングの実施体制を構築。
- ・ モニタリング結果より、全体構想の目標に向けた水門の開閉率及び管理方法の確立を行う（適宜修正を行う）
- ・ 水門のカギ管理については宮城県自然保護課（運営事務局）が行う
- ・ 開閉の調整に際しては、モニタリングや調査の計画を踏まえ、協議会等で合意形成を図ったうえで実施